

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

製 品 名 : うちこコスメ ハンドジェル
会 社 名 : 昭和刷子株式会社
住 所 : 愛媛県喜多郡内子町平岡甲400-1
電 話 番 号 : 0893-43-1123
FAX番号 : 0893-43-0206

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分2
	自然発火性液体	区分外
	自己発熱性化学品	分類できない
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分外
	急性毒性（経皮）	区分外
	急性毒性（吸入：蒸気）	区分外
	急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2B
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分1A
	特定標的臓器（単回ばく露）	区分3（気道刺激性、麻醉性）
	特定標的臓器（反復ばく露）	区分1（肝臓）、区分2（神経）
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	分類できない
	水生環境慢性有害性	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示、シンボル



注意喚起語 危険

危険有害性情報 引火性の高い液体及び蒸気
眼刺激を起こす
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
呼吸器への刺激のおそれ
眠気やめまいのおそれ
長期曝露または反復曝露により以下の臓器に障害を生じる：肝臓
長期曝露または反復曝露により以下の臓器に障害を生じるおそれ：中枢神経系

注意書き

【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全予防措置を読み、理解するまでは取り扱わないこと。
個人用保護具を着用すること。
取扱い後には顔や手など、ばく露した皮膚を洗うこと。
粉じん／ 煙／ ガス／ ミスト／ 蒸気／ スプレーを吸入しないこと。
この製品の使用時には飲食、喫煙は禁止。
室外もしくはよく換気された場所でのみ使用すること。
熱、火花、裸火、熱い面から離して保管すること-禁煙。
容器は密閉して保管すること。
受信装置と容器をしっかりと固定/接地すること。
耐爆電気/換気/照明/機器を使用すること。
火花の出ない道具のみ使用すること。
静電放電に対し、予防措置を講ずること。
冷所保存
【応急措置】
ばく露、もしくはその恐れがある場合、医師の治療を受けること。
眼に入った場合、数分間目を付けて洗浄する。もしコンタクトを装着していて、容易に取り外せるなら取り外す。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合、医師の治療を受けること。
皮膚または髪に付着した場合、汚染されたすべての衣服をすぐに脱ぎ、水やシャワーで皮膚を洗うこと。
吸入した場合、新鮮な空気のある場所に移動させ、呼吸が楽な姿勢で休憩させること。

火災の場合： 消火には、二酸化炭素、粉末消火剤、耐アルコール泡を使用すること。

【保管】

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

涼しいところに置くこと。

【廃棄】

内容物および容器は承認された廃棄物処理場に廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 混合物

成分	C A S 番号	化審法	濃度又は濃度範囲
エタノール	64-17-5	2-202	60～70%
シロキクラゲ多糖体	778577-37-0	2-235	非公開
チャ葉エキス	84650-60-2	2-235	非公開
B G	107-88-0/ 6290-03-5	2-235	非公開
グリセリン	56-81-5	2-242	非公開
リナロール	78-70-6	2-249	非公開
(アクリレーツ/アクリル酸アルキル (C10-30))クロスポリマー	—	—	非公開
T E A	102-71-6	2-308	非公開
水	7732-18-5	—	非公開

・P R T R法 該当しない

4. 応急措置

吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移し、呼吸のしやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い場合には、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	すぐに石鹼と大量の水で洗浄すること。
眼に入った場合	眼に入った場合、数分間注意深く洗浄すること。コンタクトを装着していて、容易に取り外せる場合は取り外す。その後も洗浄を続けること。目の刺激が続く場合は、医師の手当てを受けること。
飲み込んだ場合	水で口の中を洗浄した後、コップ数杯の清水を飲ませ希釈し、可能であれば吐き出させる。意識のない人の口には何も与えないこと。ただちに医師に連絡すること。医師の指示がない場合には、無理に吐かせないこと。
その他	使用中、目に異常を感じたり、せき込んだり、気分が悪くなったときは、直ちに使用を中止して、その場から離れ、洗眼、うがいをする。その後、直ちに医師の処置を受ける。
応急処置をする者の保護	個人用保護具を着用すること。

いずれの場合も、医師への受診時には製品または安全データシートを持参する。

5. 火災時の措置

消火剤

粉末消火剤、二酸化炭素、水スプレー、耐アルコール泡、水スプレー（水噴霧）

使ってはならない消火剤

棒状水放射

特有の消火方法

初期の火災には、大量の水噴霧、又は粉末、炭酸ガス等の消火器による消火を行う。大規模火災には、泡（耐アルコール泡）消火剤を用いて空気を遮断する。

消火を行なう者の保護

個人用保護具を着用する。消防士は自給式呼吸器および消火装備を着用する必要がある。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入したりしないようにする。風上から作業して、風下の人を待避させる。

環境に対する注意事項

漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

少量の場合には、こぼれた場所を速やかに大量の水で洗い流す。
大量の場合には、乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に出来るだけ回収する。回収できなかった場所を大量の水で洗い流す。

二次災害の防止策

環境規制に従って汚染された物体および場所をよく洗浄する。
浸透性及び揮発性があるので、付近の着火原となるものは速やかに取り除く。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

化粧品であるため、用途以外に使用しない。また、定められた方法にしたがって使用する。
他の薬剤、洗浄剤などとは絶対に混ぜたり併用したりしない。

周辺での火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。

使用時は換気を良くする。

飛散した液を吸い込んだり、目に入らないように注意する。

容器を転倒、落下させたり、衝撃を加えること、また引きずるなどの乱暴な取扱いはしない。

誤飲等事故の恐れがあるので、飲料用の容器を含む他の容器に移し替えたり小分けしない。

かぶれ、ただれなどの皮膚障害があるときは、悪化させることがあるので使用しない。

皮膚に異状を感じたときは使用を中止する。

倒したり、こぼしたりしないように注意する。

使い終わった容器は、適切に処理する。

保管

火気、熱源から遠ざけて保管する。

直射日光、40℃以上、多湿および凍結のおそれのある場所を避けて密閉して保管する。

酸化性物質（塩素系の製品など）と同じ場所に保管しない。

子供の手の届かないところに保管する。

8. 曝露防止及び保護措置

管理濃度 設定なし

許容濃度（エタノールとして）

日本産業衛生学会（2001年度版） 設定なし

米国産業衛生専門家会議（ACGIH）（2009年度版） STEL 1000ppm

設備対策 火気、熱源のない場所で換気に留意する。

保護具

状況に応じ、有害ガス用防毒マスク、空気呼吸器、保護眼鏡、保護手袋

保護長靴等を使用する。

作業衣

帯電防止衣服を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

形状 ジェル

色 無色透明

臭い 特有の芳香

pH データなし

融点・凝固点 データなし

沸点 データなし

引火点 23.7℃

燃焼又は爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
蒸発温度	データなし
自己反応性・爆発性	蒸気は空気と爆発性の混合気体を生成する。
揮発性	あり

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の手扱い条件においては安定であり、危険有害な分解性生物は発生しない。
危険有害反応可能性	硝酸、硝酸銀、硝酸水銀、過塩素酸マグネシウムなどの強酸化剤と接触すると激しく反応し、火災や爆発の危険性がある。ある種のプラスチック、ゴム、被膜剤を侵す。
避けるべき条件	火気、熱源の付近、直射日光、40℃以上、多湿、凍結条件下、開放状態
混触危険物質	強酸化剤、次亜塩素酸カルシウム、アンモニア
危険有害な分解生成物	一酸化炭素 (CO)

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	使用原料の加算式判定の結果より、区分外とした。 LD50 > 2000 mg/kg
急性毒性（経皮）	使用原料の加算式判定の結果より、区分外とした。 LD50 > 2000 mg/kg
急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	使用原料の加算式判定の結果より、区分外とした。 LC50 > 20 mg/L (4h)
急性毒性（吸入：粉じん・ミスト）	データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性・刺激性	データ不足のため分類できない。
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有するため、区分2Bとした。
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。
発がん性	データ不足のため分類できない。

エタノールの発がん性はACGIHでA3（ACGIH（7th, 2012））、IARC（2010）では、アルコール飲料に含まれるエタノールとして区分1Aと分類される。これは飲料としてエタノールを摂取した場合の有害性を示すことから、IARCの情報を本製品のばく露有害性の判断に使用することは不適と考え、現時点ではデータ不足のため分類できないと判断した。

生殖毒性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有するため、区分1Aとした。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有するため、区分3とした。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有するため、区分1、区分2とした。
吸引性呼吸器有害性	データ不足のため分類できない。
その他の情報	データなし

1 2. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性（急性）	データ不足のため分類できない。
水生環境有害性（長期間）	データ不足のため分類できない。
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし
その他の情報	データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	下水道以外の河川等、公共水域への排出は絶対に避ける。 少量の場合は、水で十分に希釈して排出する。 廃棄処理するときは、保護具を着用する。 多量の場合は、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者にて委託処理をする。
汚染容器、包装	使い終わった容器は、産業廃棄物として適切に処理する。
保護内容物／容器の廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。	

1 4. 輸送上の注意

国際規制

国連番号	1 1 7 0
品名（国連輸送名）	エタノール又はその溶液
国連分類	クラス 3（引火性液体類）
容器等級	II
海洋汚染物質	該当しない
MARPOL 73/78	ばら積み輸送されない製品のため対象外。
及びIBCコード	
HSコード	3 4 0 1 . 1 1
国内法規制	次の輸送に関する国内法規に該当するので定められている輸送方法に従う。 消防法 危険物船舶運送及び貯蔵規則

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・ 輸送前に容器の破損、腐食、漏れなどがないことを確認する。
- ・ 荷役作業は丁寧に行い、容器を破損しないように取り扱う。
- ・ 転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
- ・ 直射日光、40℃以上、多湿、凍結条件下、開放状態での輸送は避ける。
- ・ 水濡れを避ける。

15. 適用法令

毒物及び劇物取締法	該当しない
化学物質管理促進法（PRTTR法）	該当しない
労働安全衛生法／通知対象物	第61号 エタノール（60～70%）
表示物質	第61号 エタノール（60～70%）
有機則	該当しない
特化則	該当しない
危険物	引火性の物
消防法	危険物第四類アルコール類水溶性 危険等級II
薬機法	化粧品
危険物船舶運送及び貯蔵規則	引火性液体類
海洋汚染防止法	ばら積み輸送されない製品のため対象外。
水質汚濁防止法／水素イオン濃度	該当しない
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物

16. その他の情報

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データ等に基づいて作成しておりますので、含有量、物理学的性質、危険・有害性等に関しては、新しい知見により改訂されることがあります。また、安全データシートは安全保証書ではありません。注意事項は通常の手扱いを対象としたものですので、特殊な手扱いの場合には使用者の責任において用途・用法に適した安全対策を講じた上でお取扱いください。